

# 第50回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

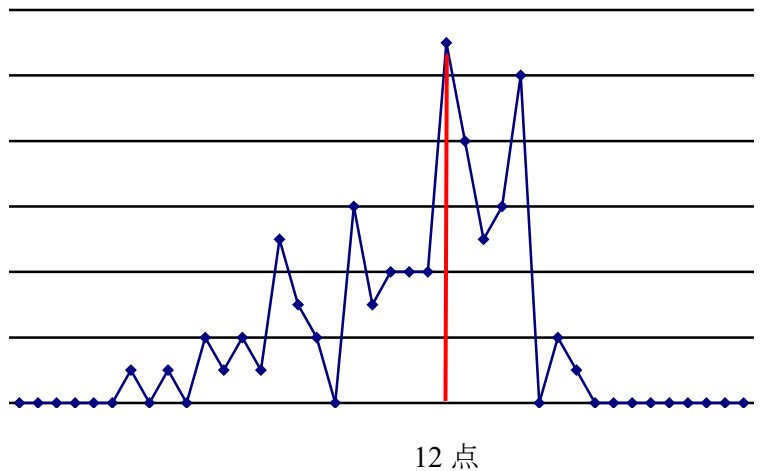
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

## 1. 実施概要

検 定 日：2022 年 12 月 11 日（日）  
検 定 会 場：東京・名古屋・大阪  
検 定 時 間：120 分  
解 答 形 式：論述形式（記述）  
申 込 人 数：93 名  
受 検 人 数：83 名  
認 定 者 数：39 名（認定率 47.0%）

## 2. 認定点

認 定 点：12 点（20 点満点）  
最 高 点：15.5 点  
最 低 点：0 点



## 3. 問 題

- 1 次の語句を簡潔に説明しなさい。
1. 世界遺産条約締約国会議
  2. バッファー・ゾーン
  3. ラムサール条約

- 2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400 字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。
- 国際社会全体の義務                      従来とは異なる新たな破壊の脅威  
教育・広報活動                              世界遺産基金

- 3 『富士山ー信仰の対象と芸術の源泉』にある富士山では、登山鉄道を整備する計画がある。世界遺産としての富士山の遺産価値や抱えている課題を考えた時、登山鉄道の整備がプラスとなる点と懸念される点の両方が考えられる。そのプラスとなる点を増やしていくためにはどうしたらよいか、具体的な事例や比較となる世界遺産の例を挙げながら、1,200 字以内で論じなさい。

## 4. 総 評

今回、前半の 1 と 2 で認定基準の 6 点以上である受検者が出席者の 73.5% おり、例年以上に高かった。その反面、 3 で、漠然とした景観問題のみで論を展開する受検者が多く、富士山の「世界遺産としての価値」の観点から具体的に論じている答えは少なかった。同じ景観問題で展開していたとしても、富士山が自然遺産ではなく信仰の山として登録されている点や、構成資産が点在している点などを踏まえて解答したものには高い点数がついた。全体で見ると、よく対策がなされているように感じられた。論理展開や文字数なども高い水準にあったと言える。今後は、想定していたものとは異なる出題がなされた時に、自分の得意とする観点からいかに出題者の意図に沿った解答ができるかが鍵となる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。「世界遺産条約締約国会議」では、世界遺産条約を採択した全締約国による会議であることや、ユネスコ総会会期中に開催されること、世界遺産委員会からの活動報告を受けることなど、複数の点から説明できている解答には高い点数がついた。どの要素を組み合わせるとよいか、試験対策の時から意識して考えておくことが大切である。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。前回までと比べて、指定語句を羅列しただけの解答は減っており、よく対策されているように感じた。指定語句は例年似たようなものが出されており、出題者が求める「世界遺産条約の説明」はある程度推測できるため、そうした方向性も踏まえて対策をしておくといよい。「世界遺産基金」では、それが何のために、どのように使われるのか、「新たな脅威」では具体的な脅威が書かれているとより高い点数がついた。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻などは、時代が違うため注意が必要である。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：富士山は信仰の対象としての価値から文化遺産で登録されており、ゼメリング鉄道など他の山岳鉄道と同じ観点から登山鉄道の整備の問題を取り上げても、一般論に終始してしまう。問題文に「世界遺産としての富士山の遺産価値」とあるため、そこから論考が離れないようにしなければならない。一方で、登山鉄道の整備を SDGs やカーボンニュートラルの観点から姫路城を例に挙げて論じた解答は、他の受検者とは異なる独自の論の展開で読み応えがあった。論述問題では他の受検者とは異なる独自の視点やその確かな論拠を示すというのは重要である。普段ニュースに触れるときなどから、一般論より一歩踏み込んだ見方をしておくといよいだろう。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。